

さまざまな人材が活躍

安全を守る、格好いい仕事

秋田スズキ 秋田本店サービス部 畑山 遥さん

3級自動車整備士の畑山遥さん(21)は、秋田スズキ(本社秋田市)に入社して4年目。高校3年生の時、就職指導の担当教諭から同社の見学を勧められたことがきっかけで、整備士になりました。畑山さんは「自動車販売店に足を踏み入れたのは、会社見学の時が初めて。とても緊張しました。展示されていた車が印象的でした」と振り返ります。

ショールームや整備工場を見学して将来自分が働く姿を想像し、「整備士になれたら格好いいな」と考えた畑山さん。入社前は自動車メーカーや車種の区別がつかず、車に関する知識も全くありませんでしたが、整備士の世界に飛び込もうと決めました。

入社試験の面接で、2年目に3級、5年目に2級自動車整備士の国家資格を取得すると役員らに約束。社会人になって最初の夏季休暇を勉強に充てて国家試験に臨み、翌年に3級を取得しました。

現在は新車の整備を担当し、納車前の点検や追加装備品の取り付けなどを行っています。「先輩に質問しやすい職場の雰囲気に助けられています」と笑顔を見せます。

同社では現在、県内9店舗で91人の整備士が働いており、このうち女性は畑山さんを含めて3人。畑山さんは「お客さまから『女性は珍しいね、頑張ってるね』などと声を掛けられることもあります」と話します。

「定期点検の度に顔を見に来てくれるお客さまもいて、本当に励みになります。整備士の仕事は体力を使うので大変ですが、納車を楽しみにしているお客さまを見ると、誰かの役に立つことができていると感じます」

次の目標は2級整備士の合格です。「高校生の頃は勉強が好きではなかったけれど、今はさまざまな部品の役割や仕組みを理解して知識を増やすのが楽しい。お客さまと車の



安全のために働く整備士は、とても大切な仕事だと感じています」

経験を生かせる場は多い

秋田いすゞ自動車 経営管理部課長 滝川 至さん

秋田いすゞ自動車(本社秋田市)で働く滝川至さん(48)は、2級自動車整備士の資格を持ち、自動車検査員と



して、車検業務に長く携わってきました。県内で整備業務に関わった経験を生かし2014年から約3年半、商用車メーカーのいすゞ自動車(東京)に転出。このうち3年間はミャンマーで技術指導などを行い、国内では車両の不具合に関する情報分析業務も経験しました。

「秋田を含む日本の整備士は十分な技能を備え、自ら考

えて動くことができます。世界の中でも、整備技術はとても高いと感じました」と滝川さん。ミャンマーでは自動車販売を行う現地法人の立ち上げや、現地スタッフの点検技術の向上に取り組みました。

「現地スタッフは気質や喜怒哀楽の表現、生活習慣が日本人とは全く違います。言葉の壁もある中、コミュニケーションの取り方や技術の伝え方に苦労しました」と語ります。

帰国後は県内に戻り、店舗の法令順守や人材教育に関する業務を担当しています。「新人の頃を振り返ると、毎日、目の前の整備で精いっぱい。海外で働くことなど想像できませんでした。でも整備士の中には、営業マンとして活躍したり、私のように海外勤務

や法務関連の業務に携わったりする人もいます。整備の経験を生かせる場所は、意外と多いのだと知ってもらいたい」と強調します。

一方で県内では、将来の整備士不足に備えて外国人技能実習生を受け入れている整備工場があります。県自動車整備振興会によると、県内で自動車整備に従事する実習生は21年4月末時点でベトナム、インド、マレーシアの計9人。今後は実習生がさらに増えるとみられています。

滝川さんは「海外の人と一緒に働く」と視野が広がります。自分の学びのためにも、積極的にコミュニケーションをとってみて。もしも海外で働くチャンスが巡ってきたら、ぜひ挑戦してください」と話していました。